

レベル7 深刻な事故

福島では未だに原子炉内部の詳細は分かっていない。廃炉処理は今後何年後か何十年後か解らない。

便利の裏には大きなリスクが隠れている事を今一度認識しながら、日常生活で普段何気なく使っている電気、ガス、水道、通信等のライフラインについて一寸足を止めてありがたさを考えてみたらどうだろう？

因みに、当村では自然エネルギーを利用した太陽光発電と風力発電の実証実験が始まった。無公害の電力を安定供給できるように期待したい。

議長 戸田邦市

公共施設再見

第3回 新島村温泉ロッジ (中)

今号は温泉ロッジ内のレストランを取り上げる。ご承知の方々も多いと思うが、ここは宿泊施設とは別経営になっている。村から個人への貸付である。厳密に言うと、行政上の目的を持った公共施設であるので、契約ではなく、使用許可となる。施設を使いたい人が使用の申請書を提出してそれを許可するという体裁をとる。現状は1年ごとの使用となっていて、期限が来る前に新たに申請して許可をもらい、結果として継続して営業を続けることになる。

月額5万円の使用料が高いか、安いかは、にわかに即断できない。中の設備や什器類はとりあえず整えられているが、実際には使用に耐えられない物品も多く、食器類はほとんど自前だと言う。また一定の条件が課せられていて宿泊客に朝夕食を供



外は雨のためまだ暗い。静かな朝食。

することや、その食事メニューにはできる限り地元産の食材を使うとなっている。レストランの名称は「みかさ」。経営者は村内での飲食店の経験が長く、アット・ホームな雰囲気をモットーに接客しているとのこと。このため賄いはすべて家族であたり、忙しいときは家族総出のやりくりとなるそうだ。

議員が訪れたのは正月のお屠蘇気分のぬけきらないオフ・シーズンの頃。やはり宿泊客はまばらで若い夫婦と幼児、年輩の女性、出張の公務員2人の計6人。各テーブルに炭火をおこして暖をとれる趣向になっていて、食事のお

かずも好みで温めなおせる。以前レストランの食事に不満の声があったが、現在はかなりの好評を得ていると聞いた。このときの夕食のメニューはカンパチの煮付、メダイの刺身、天ぷら、生しいたけ、酢のもの、おしんこ、餅などであと椀もの。



取材に訪れたときの朝食のメニュー。

レストランの利用

客は宿泊客がほとんどで一般の人も入れるが、予約が必要である。運営を始めて8年になるが、それなりの利益を出しているようだ。5月から9月までの営業で年間の売上の8割を占めるといふ。店内の壁には政治家、テレビタレント、スポーツ関係者などの著名人の色紙がところ狭しと貼ってあり、ここからも評判のほどがうかがえる。

レストランの課題としては日中の食事時間が限定されていることである。理想を言えばやはり日中はいつでも軽食やドリンク類がほしいもの。特にロビーの休憩スペースが狭いことを考えれば、ここで軽い食事や飲み物を摂って談笑や息抜きのできるようにすることは大事である。採算がとれるかどうか、人員を配置する余裕があるかなど、以前にも検討されたようだが、施設のグレードを高めるうえでは欠かせない。

(公共施設再見取材班)